



みつぎ便り

第185号 2月号 令和4年2月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

サクラ

サクラといえばソメイヨシノ。公園の西側道路沿いのソメイヨシノの幹に「伐採作業のお知らせ」が貼られていました。見次の会が持っている土木課の資料「昭和六十三年公園改修計画」の公園見取り図のコピーには、この木が記録されています。今年の二月下旬に伐採される予定となると、少なくとも三十三回、私たちはこのサクラの開花を楽しんできたこととなります。木の上のほうを見ると、まだまだ固く小さいですが、たくさん蕾がついています。なぜ伐採するのでしょうか？

根元近くの幹を見ると、何と大きな「サルノコシカケ」が生えています。このキノコは、木材腐朽菌で立ち木に侵入すると、心材や辺材を腐らせ風倒れ、風折れの原因になったり、その木が材質腐朽病を起こしたり、折れやすくなり枯れ死の原因になったりします。伐採するのはこのキノコが鎮座したためでしょうか。安全のためには仕方ありません。

ソメイヨシノの寿命六十年説がありますが、樹齢百年以上のソメイヨシノも現存することから、この説の研究余地はまだありそうです。サクラが開花したら、見次公園にあるサクラの種類や本数を確かめてみたくまりました。(敦)



シロタエギク

今年の冬は、全国的にも記録更新の積雪、寒さが続いています。公園も一年で一番、野生の草花の花が少ない時期になっています。もっとも花壇の花は別ですが。

この時期に花を愛でる家庭では、大きな鉢に寄せ植えをする家も多いかと思いますが、そのときに脇役ではありますがよく使われるのが、

「シロタエギク」です。パンジー、ビオラ、キンセンカなどの花と寄せ植えをして、主役を引き立てます。キク科の花で、花はキクの花に似ていて、茎、葉は緑色をしているが冬は白い毛が、全面にありシルバリーリーフになっています。耐寒性の常緑多年草で、今頃の季節に外の耐寒性の花と一緒に鉢に寄せ植えもできます。

六月頃には黄色い花が咲き、草丈は一m近くにもなります。花の少ないこの季節は、寄せ植えを楽しみ、少しでも春の先取りをしてみたいかがでしょうか？ (圭)

